第 n 問

A,B を可換な n 次実正定値対称行列とする。また, $oldsymbol{x} = \begin{pmatrix} x_1 & \cdots & x_n \end{pmatrix}^t$ とする。

$$|\boldsymbol{x}^t A \boldsymbol{x}| = 1$$

を満たすとき,

 $\boldsymbol{x}^t B \boldsymbol{x}$

の最大値、最小値は A,B の固有値をそれぞれ λ_A,λ_B とすれば、

最大值 =
$$\frac{\max \lambda_A}{\min \lambda_B}$$
, 最小值 = $\frac{\min \lambda_A}{\max \lambda_B}$

となることを示せ。

作問者:negi_0613_

A,B は可換な対称行列であるから。次のように直交行列 P を用いて、同時対角化可能である。よって、A の固有値を $\lambda_{A,i}$ とすれば、それらは全て実数であり、次のように変形できる。

$$\mathbf{x}^{t} A \mathbf{x} = x^{t} P^{t} P A P^{t} P \mathbf{x}$$
$$= (P \mathbf{x})^{t} (P A P^{t}) (P \mathbf{x})$$
$$= \sum_{i=1}^{n} \lambda_{A,i} X_{i}^{2}$$

ただし, X_i は Px の第 i 成分である。

同様c, B の固有値を $\lambda_{B,i}$ とすれば, それらは全て実数であり,

$$\mathbf{x}^{t}B\mathbf{x} = x^{t}P^{t}PBP^{t}P\mathbf{x}$$
$$= (P\mathbf{x})^{t}(PBP^{t})(P\mathbf{x})$$
$$= \sum_{i=1}^{n} \lambda_{B,i}X_{i}^{2}$$

ここで、A は正定値行列であるから、 $\lambda_{A,i}>0$ である。 ゆえに、 $Y_i=\sqrt{\lambda_{A,i}}X_i$ とおけば、

$$|\boldsymbol{x}^t A \boldsymbol{x}| = \sum_{i=1}^n Y_i^2 = 1$$

のもとで,

$$oldsymbol{x}^t B oldsymbol{x} = \sum_{i=1}^n rac{\lambda_{A,i}}{\lambda_{B,i}} Y_i^2$$

の最大値, 最小値を求めれば良い。

これは明らかに、固有値は全て正であったから、

最大値 =
$$\frac{\max \lambda_A}{\min \lambda_B}$$
, 最小値 = $\frac{\min \lambda_A}{\max \lambda_B}$